カリキュラムマップ＜パターンB＞：工学部・建設学科建築学コース

		授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
					A	B	C	D	E	F	G	H	I
初期導入科目		大学生活を送るうえで必要とされる，自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。（必要に応じて学科等ごとに追加）	各学習・教育目標を達成する基礎として，新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。	・日々の生活や学習における自己管理，時間管理ができるようになる。 ・大学という場を理解するとともに，学習を進めるうえで必要な知識，技能を身につける。 ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し，それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで，今後4年間の過ごし方について考え始める。 （必要に応じて学科等ごとに追加）	##	##	##	##	##	##	##	##	##
リテラシー科目	英語	1年次において，「Integrated English A」では，Study Skills の養成後，Oral Communication とReadingを主とした4skills（speaking, listening, reading, writing）の育成を，「Integrated English B」では，Oral Communication とWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English Ⅰ，Ⅱ，Advanced English Ⅲ」の各クラスにおいては，基本的な英語運用能力を基に，個々の学生の興味に応じて，特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い，習熟度に対応した英語力養成を徹底し，入学時に英語能力が高い学生には，通常学生と異なるHonors Programを，4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって，卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が，全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」，「書く」，「話す」，「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに，文化的背景に関する知識についても学習することで，仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	スポーツと健康	集団的スポーツと個人的スポーツ（軽スポーツ的な内容を含む）から，学生は，希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め，運動する楽しさ，ストレス発散，技能の向上を図る。チームワークを高め，試合運営について熟知できるようにして，様々な人達と接する機会を増やしながら，グループ間での学び合いなど，社会・対人関係力の形成に努める。また，運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけをも行う。 以上のカリキュラムによって，履修した運動種目の知識，技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し，体力向上への意識づけを図るとともに今後に発展するコミュニケーション能力，リーダーシップの基盤を養成することを目指す。	生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向けた心身の健康の重要性を，スポーツの経験を通して理解させる科目である。	身体・体力面（自己コントロール，適応力，耐性，自律性，達成感など）とともに社会・対人関係面（共感力，リーダーシップ，協調性，連帯感，コミュニケーションなど）における能力が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	情報処理基礎	情報化社会で必要不可欠とされる情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力を学び，情報活用の実践力を養い，情報の科学的理解を深める。 （必要に応じて学科等ごとに追加）	すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。	情報社会に創造的に参画する素養を身につける。 （必要に応じて学科等ごとに追加）	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	人文科学系科目	哲学，心理学，文学，芸術，人文総合領域の領域からなり，これらの科目を履修することによって，人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学，心理学，文学，芸術の入門を学び，人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方，文学，文化，芸術の評価や鑑賞のための基本が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	社会科学系科目	日本社会のみならず，国際的な視野に立ち，それぞれの社会の理解を深める過程を通じて，我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し，現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」，「政治学領域」，「経済学領域」，「社会学領域」，「地理学領域」，「歴史学領域」の6領域に，これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から，各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し，現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力，そこに主体的に働きかけ，よりよい社会を形成してゆく力が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	自然科学系科目	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能，また，現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために，「数学」，「物理」，「化学」，「生物」，「地学」，「情報」の領域に関する科目，および，これらの複数の領域にまたがっている科目群から，各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##

教養科目	健康科学系科目	大学在学中および将来にわたって生活の基盤となる「運動」,「栄養」,「休養」に関する諸科学を修得することで，健康科学に関する幅広い教養と実践力を身につけることを目指している。「スポーツの文化や社会での役割，トレーニング法とその効果」に関する科目，「食と栄養」に関する科目，「心身の健康」に関する科目などから各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの健康科学系の科目である。	生活の質的充実の基盤となる食事や健康の重要性とスポーツの果たす役割やスポーツが本来有する「楽しみ」を知り，自ら健康を維持増進させるための基本的な知識と実践力が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	初習外国語系科目	大学入学前に，それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に，「読む」,「書く」,「話す」,「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために，各言語の基礎的能力を確認しながら，コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ，Ⅱ」を開設する。 一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより，各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また，「初習外国語基礎Ⅰ，Ⅱ」のみを履修することによって，自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」,「書く」,「話す」,「聴く」ことに関する基礎的能力，諸外国や異文化の多様性への興味・理解，地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性，語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##
	総合系科目	教室外活動の実施，大学内外からの講師の積極的登用，授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら，アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間，あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし，受講生の主体的な参画により，課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに，企業等から提供される授業もあわせて実施し，現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより，変化が激しい現代社会への視野を広げながら，持続可能な社会を創造するために必要な，科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力，行動的知性が身についている	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##
基盤キャリア教育科目		「自分がどんなキャリアデザインを描くのか，どんな大学生活を送ったらよいか，どんな職業選択をするか」を意識しながら学び，職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく，グループワークやインタビュー，外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し，学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け，必要な能力や態度(キャリアデザイン能力）の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち，社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢，職業や働き方への理解，自己理解を深めるために必要な知識・技能等を修得し，自らキャリアデザインを描く基礎が身についている。	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##
専門導入科目（微積分学及演習Ⅰ・Ⅱ）		微積分学は理工学分野において連続関数を扱う数学として種々の専門分野の基礎となる必須の学問である。微積分学の理論的基礎である収束（極限）概念の理解を深めつつ、応用に必要な基本事項の修得ができるよう、講義・演習を行う。	工学技術の基礎となる数学のうち、もっとも応用範囲の広い微積分学の基本について学び、科学技術に対する共通的リテラシーを身に付ける。	微積分学（数列、級数、1変数関数の微分・積分の基礎概念の理解を深めつつ、その応用に必要な基本事項を修得することを目標とする。	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##	##